Ⅴ．今後の教育政策の遂行に当たって特に留意すべき視点

１．客観的な根拠を重視した教育政策の推進

○　教育政策を推進するに当たっては，法令を遵守するとともに，より効果的・効率的な教育政策の企画・立案等を行う観点や，国民への説明責任を果たす観点から，客観的な根拠を重視した行政運営に取り組んでいくことが重要である。

○　教育政策は，幼児，児童，生徒及び学生の成長や可能性の伸長等を目指して行われるものであり，一人一人の様々な教育ニーズを踏まえて，教育活動が行われる。このため，成果は多様であり，その評価は多角的な分析に基づくべきものであることに留意する必要がある。

○　また，他の政策分野と比較して，成果が判明するまでに長い時間を要するものが多いこと，成果に対して家庭環境など他の要因が強く影響している場合が多く，政策と成果との因果関係の証明が難しいものが多いことなどの特性があることにも留意し，研究者や大学，研究機関など，多様な主体と連携・協力しながら，数値化できるデータ・調査結果のみならず，数値化が難しい側面（幼児，児童，生徒及び学生等の課題，保護者・地域の意向，事例分析，過去の実績等）についても可能な限り情報を収集・分析し，あるべき教育政策を総合的に判断して取り組むことが求められる。

（教育政策の PDCA サイクルの推進）

○　各施策を効果的かつ効率的に実施するとともに，教育政策の意義を広く国民に伝え，様々な社会の構成員の参画の促進等を図るためにも，目標の達成状況を客観的に点検し，その結果を対外的にも明らかにするとともに，その後の施策へ反映していくことで実効性のある PDCA サイクルを確立し，十分に機能させる必要がある。

○　その際，全国的な教育の機会均等や教育水準の維持向上と併せて，各地域において異なる実情やニーズに応じて最適な対応がなされるよう，国と地方公共団体が適切な役割分担の下に互いに連携・協力をしたり，それぞれの地方公共団体が相互に情報交換等をしたりしながら，取り組んでいくことが重要である。

（教育政策の企画・立案段階）

○　教育政策の企画・立案段階においては，政策の目標と具体的な施策を総合的かつ体系的に示すことが重要である。このためには，いわゆるロジックモデルの活用も有効である。過去の取組のフォローアップを通じて明らかになった課題等を踏まえつつ，客観的な根拠を重視して企画・立案を行うとともに，企画・立案段階から，目標の達成状況に関する指標設定等を通じ，客観的な根拠を把握し生かす仕組みを組み込んでおくことが重要である。

（教育政策の実施段階）

○　客観的な根拠を重視した施策を展開するため，以下のような観点を重視する必要がある。

・　各施策の進捗状況に関する毎年のフォローアップや政策評価の結果，各種調査結果等を踏まえ，必要な改善を図りつつ，総合的・体系的な観点から着実に実施する。

・　客観的な根拠を重視した施策展開を具現化するため，教育活動の多様な成果を多角的に分析するとともに，数値化できるデータ・調査結果のみならず，数値化が難しい側面も含め，現場感覚を持って的確に状況を把握し，そこから得られた問題意識や政策ニーズを適切に反映させた企画立案等を行うことのできる行政職員を育成する[57]。

・　国と地方公共団体とで，多角的な分析に基づいて，企画・立案などを行った先進事例等に関する意見交換や情報交換を進め，客観的な根拠を重視した施策を推進する。

（教育政策の評価・改善段階）

○　政策の評価段階においては，指標の活用等により，各目標の進捗状況を検証，評価する。教育振興基本計画のフォローアップに際しては，政策評価との整合性を持って実施するよう連携を進めることが重要である。

○　政策の評価に当たっては，関連の深い複数目標間で達成状況を比較したり，相関関係を分析したりするなど，目標横断的な視点からの分析にも留意する必要がある。

○　政策の評価の結果を踏まえ，より効果的・効率的な施策の実施へと改善を図ること，さらには，次期の教育振興基本計画につなげることで，不断の検証改善サイクルの確立を図ることが必要である。

○　政策の評価に当たっては，同種の評価や調査等が重複し，施策担当や教育現場の負担が過度に生じることのないようにすることが重要である。

（客観的な根拠を重視した政策推進の基盤形成）

○　客観的な根拠を重視した政策の推進を図るためには，行政組織としての

[57] 育成が必要な資質・能力としては，客観的な根拠（調査，統計，資料）の収集，加工等の方法，政策立案・検証の方法，多様な分析の視点となる学術的な知識を想定している。育成に当たっては，国等が行う講習会や，放送大学を活用するとともに，地方公共団体や教育現場との人事交流や，地方公共団体等における研修の機会の提供，現場感覚のある職員との交流等も重視する必要がある。